

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（S）

研究期間：2006～2010

課題番号：18102002

研究課題名（和文）

16-19世紀、伝統都市の分節的な社会＝空間構造に関する比較類型論的研究

研究課題名（英文）Comparative Studies of the Segmental Socio-Spatial Structures
in Traditional Cities, 1500-1900

研究代表者

吉田 伸之（YOSHIDA NOBUYUKI）

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：40092374

研究成果の概要（和文）：本研究は、16-19世紀における伝統都市の歴史的特質を、巨大化を遂げた諸都市の分節的な社会＝空間構造（分節構造）、とりわけその基底にある社会的結合の存在機制に注目し、伝統都市の分節構造に関する主要な史料群の把握・収集とその共有化をはかりながら、特にフランス、イギリス、中国、インドなどの伝統都市の事例と比較類型論的把握を実施し、今後のグローバルな研究交流を格段に進展させようと試みたものである。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to provide a comparative understanding of historical characteristics of traditional cities in Japan, France, England, China and India between the 16th and 19th centuries, and to further promote global exchange of the urban historical methodology among multi-national scholars or researchers. In order to implement these objectives, we focus on the basic factors and mechanism of social cohesion in cities such as Edo, Paris, London etc., and examine their 'socio-spatial structure' which resulted the massive scale of urbanization. We also try to collect historical documents principally related to the social and spatial characteristics of traditional cities and make the results of our efforts commonly available to the academic world.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|------------|-------------|
| 2006年度 | 18,100,000 | 5,430,000 | 23,530,000 |
| 2007年度 | 19,500,000 | 5,850,000 | 25,350,000 |
| 2008年度 | 15,900,000 | 4,770,000 | 20,670,000 |
| 2009年度 | 14,500,000 | 4,350,000 | 18,850,000 |
| 2010年度 | 14,600,000 | 4,380,000 | 18,980,000 |
| 総計 | 82,600,000 | 24,780,000 | 107,380,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学

キーワード：日本史、西洋史、建築史・意匠、都市史、比較歴史学

1. 研究開始当初の背景

本研究の前提には、研究代表者が1992年以来三次にわたって取り組んできた伝統都市に関する共同研究がある。そこでの成果と残された諸課題を確認する中で、研究者交流を国際的に大きく広げ、新たな論点や方法を模索することが重要であると自覚された。そ

れは、21世紀が最初の十年を経ようとする中で、地球的規模で一段と増殖する巨大な現代都市類型の生成と展開の意味を、伝統都市論という視点から、歴史的な文脈において確定することが、喫緊の課題であると思われたからでもある。

2. 研究の目的

(1) 伝統都市論を総括し、新たな論点を提起すること。本研究ではこのために、『シリーズ伝統都市』全4巻を企画・刊行することを課題の中軸に置いた。

(2) 伝統都市に関する主要な基礎史料群を包括的に把握し、新出史料群の調査を行うこと。特に、本研究では日本近世を中心に、フランス、イギリス、中国、アメリカ合衆国などについて、16-19世紀以来の歴史的な系譜を持つ旧伝統都市を取り上げ、それぞれの社会=空間構造を明らかにする上での史料収集に努める。また得られた情報を、印刷物やデジタル媒体によって公開を図ろうと試みた。

(3) 本研究に関わる国際的な研究交流を促進し、伝統都市の比較類型把握に実践的に取り組むこととし、その中で、伝統都市論の諸課題をめぐるシンポジウムやラウンドテーブル&ワークショップを企画し、研究交流を図るとともに、研究者間のネットワークを強固なものとすることをめざした。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者と研究分担者(2007年度まで、2008年度以降は連携研究者となる)を中心に、主要な個別研究課題を16個設定し、それぞれを基礎共同研究という枠組みで、以下のような小研究会の形式で運営した。①市中取締書留を読む会(江戸町触研究会)、②「江戸と千葉」研究会、③浅草地域研究会、④藩邸研究会、⑤飯田・上飯田プロジェクト、⑥飯田「丘の下」研究会、⑦逸身家文書研究会、⑧遊廓社会研究会、⑨清内路：歴史と文化研究会、⑩宗教都市・坂本研究会、⑪飯田・シャルヴィル：比較類型把握プロジェクト、⑫江戸・パリ比較類型把握プロジェクト、⑬東京フィールド研究会、⑭比較都市ワークショップ、⑮オランダ沼地研究会、⑯イタリア沼地研究会。

(2) 基礎史料群の調査や情報収集は、これら基礎共同研究を軸とし、遂行した。得られた情報は、研究分担者(連携研究者)の所属研究機関でストックし、また研究代表者の下(コア・センター)に集中する形をとった。

(3) 年度ごとに重点課題を設定し、11月から12月に公開シンポジウムを開催し、その成果を発表し、またそこでの成果物を『年報都市史研究』各号に特集として掲載することとした。

(4) これらの成果を総合する場として、研究分担者(連携研究者)である伊藤毅氏と吉田の編で『伝統都市』全4巻を企画・刊行した。

(5) 比較類型把握における方法論の深化を重視した。前近代有数の巨大都市を、伝統都市という共通のカテゴリーで括り、それぞれの社会=空間構造の深みと細部から、相互の都市社会の構造的な特質を比較類型論的に把握することを試みた。

(6) 伝統都市研究の方法論における進展を以下の点を中心に企図した。①分節構造論の検証・深化。②都市アイデアと都市インフラ論の提起。③権力秩序からみる分節的な社会構造論。以上の点で、新たな方法軸となるような理論枠組みを提起した。

4. 研究成果

(1) シンポジウム

都市史研究会主催の形式で、毎年11月から12月に東京大学において下記のようなテーマでシンポジウムを開催した。これらの成果は『年報都市史研究』15-19号に掲載している。

- ① 2006年11月11-12日「分節構造と社会的結合」
- ② 2007年11月10-11日「現代都市類型の創出」
- ③ 2008年11月1-2日「遊廓社会」
- ④ 2009年11月14~15日「伝統都市の比較史」
- ⑤ 2010年12月4~5日「伝統都市論」

(2) ラウンドテーブル&ワークショップ

国内外の研究者を招聘し、あるいは本研究の代表者や研究分担者(連携研究者)が海外に出張し、ラウンドテーブル&ワークショップによる濃密な研究交流を、国内外に於いて以下のように実施した。

- ① 2006年5月13日・東京大学「分節構造と社会的結合にむけて」
- ② 2006年10月28-29日・東京大学 アラン・ティレ氏(リセ・アンリ4世校)「都市の分節構造—江戸とパリ」、 「近世パリ都市社会史の方法」
- ③ 2006年12月19日・フランス社会科学高等研究院 Reflexions Croisees sur L'histoire Urbaine: Edo et Paris
- ④ 2007年6月1-2日・東京大学 塚田孝氏(大阪市立大学)「都市社会史と身分的周縁」
- ⑤ 2008年3月11・14日・東京大学 フランソワ・ルッジウ氏(ボルドー大学)「都市エリートと民衆」、 「近世フランス都市社会史の方法と史料」
- ⑥ 2008年10月11日・東京大学 リチャード・プランツ氏(コロンビア大学)「ニューヨーク 都市居住の転換点—1867-97年」

- ⑦ 2009年2月21日・東京大学 王軍氏 (新華通信社)「伝統都市の残照」
- ⑧ 2009年3月26~27日・パリ:アンリ4世校、ソルボンヌ大学「伝統都市社会構造の比較研究」
- ⑨ 2009年6月13日・東京大学 水島司氏 (東京大学)「18世紀南インドの植民地都市」
- ⑩ 2009年9月14日・東京大学 マイルズ・テイラー氏 (ロンドン大学)「ヨーロッパ史の中のイギリス近代都市」
- ⑪ 2010年1月14日・東京大学 ジェイムズ・レイブレン氏 (エセクス大学)「18世紀の都市と出版業—ロンドンと江戸」
- ⑫ 2010年8月19-20日・長野県飯田市 フランソワ・ルッジウ、アラン・ティレ、ギヨーム・カレ、ユーリ・カルボニエ、メラニー・トラベルシエ、塚田孝ほかの各氏「伝統都市の比較史」
- ⑬ 2010年9月26日・フランス:シャルルヴィル=メジエール市博物館「飯田=シャルルヴィル歴史文化研究交流」
- ⑭ 2010年10月9-10日・東京大学 王振忠氏 (復旦大学)「徽州商業文書に学ぶ」、「17~19世紀、中国の都市と商人」
- ⑮ 2011年5月28日・東京大学 デイヴィッド=アンバラス氏 (ノース・カロライナ大学)「"Bad Youth"と東京の近代」
- ⑯ 2011年9月18日・東京大学 カトリーヌ・ドニ氏 (リール第三大学)「伝統都市の自治と公共秩序—リールとブリュッセルを事例に」

(3) 成果物とその刊行

- ① 『シリーズ・伝統都市』全4巻。伊藤毅氏・吉田の編で、1巻「都市アイデア」、2巻「権力とヘゲモニー」、3巻「都市インフラ」、4巻「分節構造」をそれぞれタイトルとし、全体で42人の歴史研究者による共同研究である。準備過程では述べ15回の研究会を積み重ね、2010年に刊行を完了した。
- ② 『年報都市史研究』14-19号の編集と刊行を行った。これらは、各年度秋に開催するシンポジウムや基礎共同研究の成果を速やかに公開するため、コア・センターを実質的な基盤として編集・刊行するものである。各号の特集テーマは以下のようである。
 - ・14号(2006年11月刊)「都市の権力と社会=空間」
 - ・15号(2007年12月刊)「分節構造と社会的結合」
 - ・16号(2009年2月刊)「現代都市類型の創出」
 - ・17号(2010年2月刊)「遊廓社会」
 - ・18号(2011年3月刊)「都市の比較史」

・19号(2012年3月刊)「伝統都市論」

- ③ フランス都市史学会との研究交流の成果物として、アラン・ティレ氏、フランソワ・ルッジウ氏の論文を翻訳し、『年報都市史研究』誌上に掲載した。また『パリと江戸—伝統都市の比較史』(2009年6月)と『伝統都市を比較する—飯田とシャルルヴィル』(2011年5月)を企画・編集し、それぞれ山川出版社から刊行した。また、Societe Francaise d'Histoire Urbaine 編集の"Histoire Urbaine"29号(2010年12月)に"Edo au XIXe siecle"の特集が生まれ、吉田伸之ほか2名の都市史研究に関する論文の仏文訳が掲載され、また EHESS 編集の Annales 2011年12月号に"Les statuts sociaux au Japon"をテーマとする特集が企画され、森下徹氏・吉田伸之など4本の日本語論文が仏訳の上、紹介された。
- ④ ダニエル・ボツマン氏 (当時ノース・カロライナ大学。現イェール大学) とともに、日本近世都市史の基礎文献について英語訳を作成するプロジェクトを実施し、5本の論文について翻訳を完了させた。
- ⑤ 中国都市史研究者との交流では、王振忠氏の重要な論文を翻訳し、『年報都市史研究』18・19号に掲載した。また、この取り組みの一環として、吉田の著作『成熟する江戸』(講談社、2002年)の中国語訳が北京大学出版会から2011年に刊行された。

(4) 基礎史料の調査・収集

今回の基盤研究において、基幹的な史料収集活動を重視し、次のような成果を得た。

- ① 江戸=東京:「順立帳」、「撰要永久禄」(公用留、御用留)、「東京六大区沽券地図」、遊廓関係史料、鉄道敷設関係史料、内藤新宿・高松家文書。
- ② 山口:萩城下町絵図、萩歴史博物館蔵山縣家文書。
- ③ 飯田:飯田城下町関係、飯田藩家中・飯田城下町関係史料群(野原家文書、小木曾家文書、野村家文書)、千村平右衛門関係史料(長野県立歴史館所蔵写真資料、飯田市歴史研究所所蔵史料、下伊那郡清内路村下区有文書、同村原家(土佐屋)文書・松屋文書)。
- ④ 近江商人関係史料:『滋賀県野洲市大篠原小澤家文書現状記録調査報告書』の刊行(2009年3月)。
- ⑤ 「江戸と千葉」関係史料:泉水小河原勲家文書。
- ⑥ 大坂:逸身家文書(両替商銭屋佐兵衛・逸身銀行関係史料)。『大坂両替商・逸

身佐兵衛家文書現状記録調査報告書』の刊行(2010年3月)。

- ⑦ 坂本：岡本家文書の現状記録調査(宗教都市坂本の公人=町役人関係史料)。
- ⑧ パリ：パリ市当局記録、国王裁判所シヤトレ文書。
- ⑨ 天津：天津イギリス租界関係史料。
- ⑩ 寧波・上海・フエなどの伝統建築に関する調査資料。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

- ① 吉田伸之「城下町飯田の性格を考える」『飯田市歴史研究所年報』9号、査読無、2011、pp.20-33。
- ② 吉田伸之 "Espace urbain et corporations / Les associations de coiffeurs dans le Japon d'Edo" Annales HSS, 査読有, 66-4, 2011.
- ③ 吉田伸之「食類商人について」『和菓子』17号、査読無、2010、pp.5-18。
- ④ 伊藤毅「失われた飯田遊廓の建築」『年報都市史研究』、査読有、17号、2010、pp.92-96。
- ⑤ 吉澤誠一郎「中国における近代史学の形成—梁啓超「新史学」再読」『歴史学研究』863号、査読無、2010、pp.2-11。
- ⑥ 森下徹「日本近世における労働社会の構造」『歴史評論』721号、査読無、2010、pp56-70。
- ⑦ 吉田伸之 "Edo au fil de l'eau", Histoire Urbaine, 査読有, 29, 2010.
- ⑧ 森下徹「尾道の仲背と仲間」『お茶の水女子大学比較日本学教育センター研究年報』6巻、査読無、2009、pp.31-39。
- ⑨ 近藤和彦「チャリティとは慈善か—公益団体のイギリス史」『年報都市史研究』、査読有、15号、査読有、2007、pp.33-41。

[学会発表](計5件)

- ① 吉田伸之「高澤紀恵著『近世のパリに生きる』を読む」、2009年11月14-15日、都市史研究会シンポジウム・東京大学。
- ② 伊藤毅「高橋慎一郎・千葉敏之編『中世の都市』を読む」、2009年11月14-15日、都市史研究会シンポジウム・東京大学。
- ③ 吉澤誠一郎「学生運動と控制暴力—以五四運動為例」、2009年8月28日、第三届中国近代社会史国際学術研討会・貴州省貴陽市、中国
- ④ 吉澤誠一郎「近代中国的租界行政」、2009年8月17日、「明清以来区域發展与現代化進程」国際学術研討会・天津社会科学院、中国

- ⑤ 吉田伸之「山里の分節構造—南信濃清内路村を事例として」2008年11月9日、史学会大会・東京大学。

[図書](計29件)

(1)単著・編著

- ① 吉田伸之著、東京大学出版会、『伝統都市・江戸』2012(6月末刊行予定)、300頁。
- ② 高澤紀恵・吉田伸之・フランソワ=ジョゼフ・ルッジウ・ギヨーム=カレ編、山川出版社、『伝統都市を比較する—飯田とシャルルヴィル』、2011、299頁。
- ③ 志村洋・吉田伸之編、山川出版社、『近世の地域と中間権力』2011、311頁。
- ④ 吉田伸之、北京大学出版社、『成熟的江戸』(熊遠報他訳)、2011、261頁。
- ⑤ 吉田伸之・伊藤毅編、東京大学出版会、『伝統都市』全4巻、2010、計1196頁。
- ⑥ 後藤雅知・吉田伸之編、山川出版社、『山里の社会史』2010、321頁。
- ⑦ 吉澤誠一郎著、岩波書店、『清朝と近代世界：19世紀』、2010、246頁。
- ⑧ 伊藤毅編、中央公論美術出版、『バステード—フランス中世新都市と建築』、2009、194頁。
- ⑨ 高澤紀恵著、岩波書店、『近世パリに生きる—ソシアビリテと秩序』、2009、282頁。
- ⑩ 高澤紀恵・アラン=ティレ・吉田伸之編、山川出版社、『パリと江戸—伝統都市の比較史へ』、2009、210頁。
- ⑪ 近藤和彦編、山川出版社、『歴史的ヨーロッパの政治社会』、2008、162頁。
- ⑫ 吉田伸之編、吉川弘文館、『身分的周縁と近世社会6巻 寺社をささえる人びと』、2007、267頁。
- ⑬ 森下徹編、吉川弘文館、『身分的周縁と近世社会7巻 武士の周縁に生きる』、2007、245頁。
- ⑭ 森下徹、山川出版社、『武家奉公人と労働社会』、2007、101頁。
- ⑮ 近藤和彦・伊藤毅編、山川出版社『江戸とロンドン』、2007、242頁。
- ⑯ 伊藤毅著、山川出版社、『町屋と町並み』、2007、106頁。

(2)図書収録論文

- ① 吉田伸之「問屋と惣町—文化年間、信州飯田紙問屋騒動再考」志村洋・吉田伸之編、山川出版社、『近世の地域と中間権力』、2011、pp.273-307。
- ② 吉田伸之「山里の分節的把握—信濃国伊那郡清内路村を事例として」後藤雅知・吉田伸之編、山川出版社、『山里の社会史』、2010、pp.285-317。
- ③ 吉田伸之「「御堀端」と揚場」高澤紀恵・アラン=ティレ・吉田伸之編『パリと江

- 戸—伝統都市の比較史へ』、2009、pp. 157-171。
- ④ 高澤紀恵「サン・ジェルマン門の再開—アンリ4世・都市・城外区」高澤紀恵・アラン・ティレ・吉田伸之編『パリと江戸—伝統都市の比較史へ』、2009、pp. 11-27。
- ⑤ 高澤紀恵「カトリック改革期の聖体会—パリを中心に」山川出版社、近藤和彦編『歴史的ヨーロッパの政治社会』2008、pp. 153-189。
- ⑥ 吉田伸之「寺社をささえる人びと—浅草寺地域と寺中子院」吉川弘文館、吉田伸之編『身分的周縁と近世社会』6巻、2007、pp. 213-260。
- ⑥ 吉田伸之「佐倉炭荷主と江戸問屋」山川出版社、伊藤毅・近藤和彦編『江戸とロンドン』2007、pp. 37-53。
- ⑦ 伊藤毅「インフラ都市—江戸」山川出版社、伊藤毅・近藤和彦編『江戸とロンドン』2007、pp. 81-90。
- ⑧ 近藤和彦「カナレットの描いた二つの橋：18世紀ロンドンにおける表象の転換」山川出版社、伊藤毅・近藤和彦編『江戸とロンドン』2007、pp. 224-239。
- ⑨ 森下徹「武士の周縁に生きる—萩城下と家臣団」吉川弘文館、森下徹編『身分的周縁と近世社会』7巻、2007、pp. 203-242。
- ⑩ 吉澤誠一郎「近代天津の廟会与民間文化」北京：社会科学文献出版社、『近代中国与民間文化』2007、pp. 180-195
- ⑪ 吉田伸之「遊郭社会」吉川弘文館、『身分的周縁と近世社会』4巻、2006、pp. 13-52。

(3) その他

- ① 吉田伸之「史料紹介：嘉永二年山村九郎右衛門役用帳」『飯田市歴史研究所年報』9号、2011年、pp. 140-170。
- ② 飯田市歴史研究所編（吉田伸之解題）『飯田町役用古記録』2009、544頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：

番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/trad3/>
<http://uhsj.itolab.org/ja:home>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 伸之 (YOSHIDA NOBUYUKI)
 東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
 研究者番号：40092374

(2) 研究分担者

伊藤 毅 (ITO TAKESHI)
 東京大学・大学院工学系研究科・教授
 研究者番号：20168355
 (H19→H20 連携研究者)

近藤和彦 (KONDO KAZUHIKO)
 東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
 研究者番号：90011387
 (H19→H20 連携研究者)

高澤紀恵 (TAKAZAWA NORIE)
 国際基督教大学教養学部・教授
 研究者番号：80187947
 (H19→H20 連携研究者)

森下徹 (MORISHITA TORU)
 山口大学教育学部・教授
 研究者番号：90263748
 (H19→H20 連携研究者)

吉澤誠一郎 (YOSHIZAWA SEIICHIRO)
 東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
 研究者番号：80272615
 (H19→H20 連携研究者)

(3) 連携研究者

()

研究者番号：